

読むこと・書くこと・運動が苦手・・・子どもたちのその困りごと、

『見る力』の弱さが原因かもしれません。

ビジョントレーニング

子どもたちが躓きや困難を感じることなく英語学習に臨み、習得できるEFYのユニバーサルデザイン英語教育。学習で躓きを感じやすい「読み」「書き」。EFYではその「読み」「書き」に大きく関わる、脳のワーキングメモリと、視覚機能に注目しています。子どもの発達期にこそ重要な「見る力」のトレーニングしてみませんか？



視力がよくても『見えにくい』ことがあります。

視力検査では問題がないのに、音読や板書が苦手という悩みを抱えている子どもたちが増えています。「見る」ためには視線やピントを合わせたり、形や色を見分けたり、見たものを脳で処理して動かすというさまざまな能力が必要です。

「視覚機能」を正常に働かせる“ビジョントレーニング”は、アメリカでの歴史が深く、日本でもスポーツ選手が取り入れたり、子どもたちの能力向上のために教育現場でも活かされ始めています。



こんな様子が見られたらお気軽にご相談ください。

『学習・運動が楽しくなるビジョントレーニング』北出勝也 (ナツメ社)



気づかれにくい『見えにくさ』の問題とは？

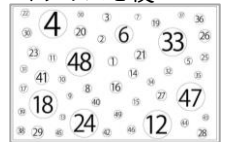
見えにくさの問題がやっかいなのは、本人も周りの大人も、それに気づきにくいところです。本人は他人と見え方を比べることができない上に、小さい頃からその状態で生活しているので、見え方がおかしいと自覚するのは難しいのです。

視覚機能の問題は認知度も低く、検査や診断ができる専門家も日本にはごくわずかです。しかし、理解のある誰かしらが、適切なトレーニングを始めてあげることができれば効果は必ずあらわれます。



ビジョントレーニング内容

視機能チェックで特性を知り、楽しいゲームやグッズを使いながら3つのトレーニングを行います。



①眼球運動

眼球球をすばやく正確に動かす能力
筋肉で目を動かし、ピントを合わせる力

②視空間認知

対象となる物の色や形状、場所などを把握する力

③眼と体のチームワーク

目で見た情報を脳で判断して体を動かす力



1回30分 3,000円

視覚機能トレーナー 北出勝也先生

米帰国後国の大学院にてオプトメトリスト(検眼士)資格を取得。ビジョントレーニングに取り組み、兵庫県特別支援相談員、視覚特別支援学校講師などを務める。「視覚トレーニングにより、学習能力・集中力がアップする」と、学校現場やマスコミ等でも注目。プロボクサー村田諒太選手のトレーニング指導を担当。



ビジョントレーニングで育つ7つの力



英語に限らず、漢字の書き取りや国語の教科書の音読など、文字に関して気になることがありましたらどんなことでもお気軽にお問い合わせください。(担当 三木玲子)